

---

# 願い事の三日月+ キセキが起きたなら+

紫羽月桜鈴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

願い事の三日月 + キセキが起きたなら +

### 【Nコード】

N1162P

### 【作者名】

紫羽月桜鈴

### 【あらすじ】

Dearの続編

願いのキズナです

## 夢現

「お母さんの名前ね、こんな話があるの」

「どんなお話？」

五歳になる娘を残してしまふ不安が、心のどこかにあった。

「それはね、短い命でも、最後まで一生懸命光っていてほしいって話」

私は少し得意げに話す。

キイツと音がして、拓たくみさんが部屋に入ってくる。

「…本来なら私はもう、天国へ逝っていても、おかしくない体なの拓さんが私の隣に腰掛ける。」

「あなたと出会えたこと、そして、紅葉を産めたことは、キセキなのよ」

「…急にどうしたんだ？」

静かに拓さんが問う。

私は少し話をずらして答える。

「あのね、昔母に聞かされた話が二つあるの。」

拓さんは紅葉の頭をなでながら聞いた。

「へえ、どんな話？」

私はまた、得意げに話す。

「それはね、私の名前の由来と、お月様のお話」

「おつきさま？」

紅葉が私を見上げて尋ねる。

「そうよ、お月様。紅葉は好き？」

「うん！大好き！」

無邪気な紅葉をみて、つい口元がほころぶ。

「お月様に、目を閉じて心の中で、たった一つの叶えてほしい願い事を言うのよ」

「…すてきだな」

拓さんが微笑みながら言う。

私もうれしくて、一緒に微笑む。

「そうね。このお話がとても大好きでね。…じゃあ、今から語ってあげる！よおく、聞いててね！」

そして、私は語りだす。

月と太陽の、小さな物語を。

## 月の願い事

とても、とても遠い昔。

お月さまは、太陽の力をかりて暗闇をてらしていました。

ある日、お月さまは太陽のように、何かの役にたちたいと思いました。

そして、それには太陽に聞いてみよう、と月は思いました。

けれど、暗闇と昼間。正反対な二つの星は、会うことはできません。たった2度のチャンスをのぞいて。

そう、『月食』と『日食』です。

幸いにも、日食が明日ある。そこで、太陽に聞こうと月は思いました。

そして日食の日。

ついに太陽に聞くことができました。

けれど太陽はこう言うのです。

『君はもう、すでに多くのものの役にたっているじゃないか』と。

月は、その時初めて気付いたのです。多くの声に。

「月のおかげで星たちは光っていられるんだ」

星たちの声に

「ああ、お月様のおかげで、夜でも明るくて助かるわ」

人々の声に

けれど月は

『それは太陽が僕をてらしてくれているから、星も人も嬉しいんだ』と。

しばらく考えていた太陽は次にこう言いました。

『それなら、お前は願いを叶えてやればいい』と。

『お前は、白くてとても純粹な光だ。まるで天使とやらのようにキレイだ。ならば、お前にも何かの願いを叶えることができるのではないか？』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1162p/>

---

願い事の三日月+キセキが起きたなら+

2011年10月7日21時42分発行